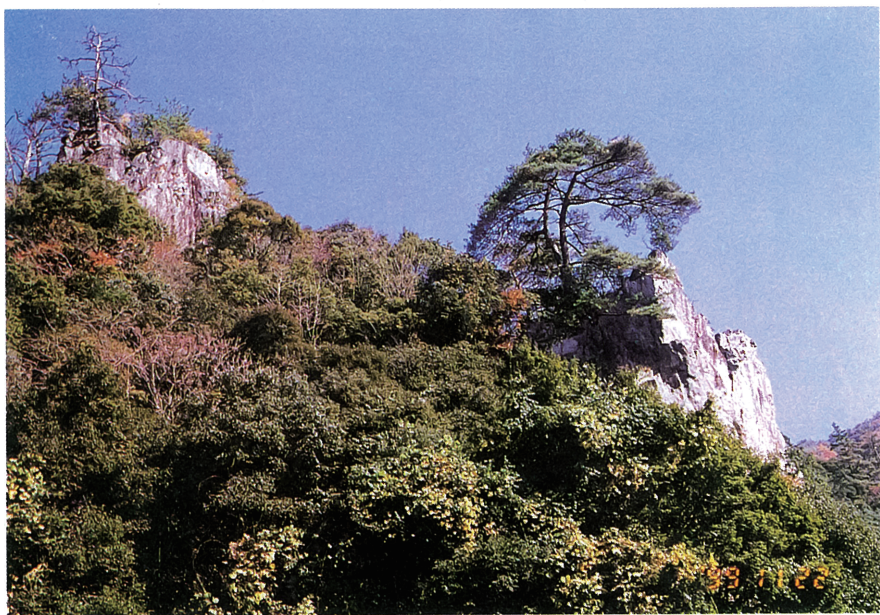


蒙談



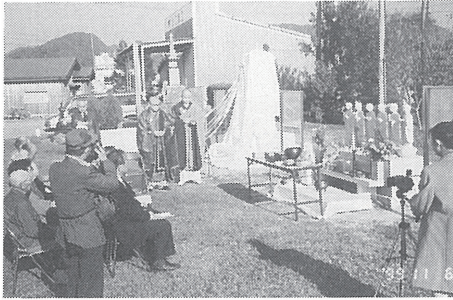
第 29 号

蒙談会発行

大村益次郎医学記念碑完成について

柴 田 眼 治

前号の「大村益次郎女囚腑分之地」で医学者としての大村の業績を述べたが、此度、その医学記念碑が山



精霊諸亡先刑場および尊蔵地六柁
各位供養会

口市小鯖^{ひいらぎ}柁刑場跡地に完成し、平成十一年十一月七日午前十一時から地域の方々、百名が参加して除幕式が盛大に行われた。式に先だつて小鯖禅昌寺（町田鉄巖老師）のご好意によって同寺から大村益次郎ご

夫妻のお位牌をお迎えし、安置した。午前九時より柁六地藏尊（九月五日建立開眼法要並びに三界万霊供養を小鯖洞海寺伊藤良仁住職が導師で厳修。）ならびに脱隊諸士招魂碑（明治二十六年建立）の二カ所において柁刑場先亡諸精霊各位の大供養会が地元の参列者によって快晴の秋天のもとおごそかに挙行された。導師は秋穂長徳寺河谷正也住職と宮野法明院藤田和彦住職で、山口県曹洞宗の青年部僧侶である。

江戸時代、長州藩の刑場であったこの地で処刑された方々、全ての大会供養会は初めてであり、脱藩諸士の慰霊も明治以来、百年ぶりのことである。明治三年の奇兵隊、諸隊の脱隊騒動の首謀者として斬首処刑され



祭靈士諸隊脱

た十三名（伊藤素市、林七五三、西川嘉市、堀正一、徳永昇輔、岡本織熊、岡五郎、高田熊四郎、江藤龍之助、佐々木祥一郎、湊秀蔵、平田松次郎、広森瀧次郎）の姓名を内田伸先生に教えて頂き、藤田住職が五輪板塔婆に一基ずつ浄写されたものを宝篋印塔前に安置して読経、焼香がご住職や参列者によって行われた。処刑された諸隊士諸靈の永年の憤激や無念も消えて安らかな世界に永眠されたことと拝察した。

さて、これまでの経緯を誌すと、本年二月十二日、地域ボランティア団体である「大内倶楽部」第二十八回例会において「大村益次郎医学記念碑」建立の話が持ち上がった。メンバーには多くの異業種のリーダーや「大内史談会」や「山口ふるさと大学」「山口県曹洞宗青年部会」の会員など郷土の歴史と文化を愛する人達が多く、雑草で荒れ果てた終刑場跡地が話題になっていた。今回、医師会有志や各方面へ働きかけて「大村益次郎医学記念碑建立委員会」を設立して本事業の賛同を得るべく努力活動することになった。

三月十八日、関係者が十五名が集まり「大村の柙解剖」の詳細な資料の収集検討を行った。記念石碑、説明板や進入路案内板の設置を決めて業者を内定し、見積りを取ることにした。

四月九日の会合で大村益次郎の命日十一月五日を目途に寄付を募り、記念碑、説明板および進入路案内板を設置することとした。なお、この地は市有地である

ため山口市文化課の内諾を得た。

四月十日、石碑・

進入路案内板・説明板の見積りが約百万円と提出された。破格の低廉奉仕金額である。

五月八日、山口市
鑄銭司郷土館、大村
神社、大村益次郎ご



鑄銭司郷土館にて（大村益次郎の資料や遺品の説明を内田伸先生にして頂いた。）

鑄銭司大村神社にて



大村益次郎神道碑

夫妻墓所と神道碑、誕生宅跡を有志十二名が内田伸先生のご案内で探訪し、詳細な説明を受けた。内田伸先生は大村益次郎研究の第一人者であり、山口市歴史民俗資料館名誉館長、元鑄銭司郷土館々長で益次郎の琴子夫人の生家近くにお住まいになっておられる。セミナーパークで夕食を共にして益次郎の生涯について詳

しく説明して頂いた。

七月二十三日、医学記念碑設立趣意書作成と建立委員会を設立することとして、その発起人を協議した。特に医学関係のことでもあり、山口市医師会の小鯖、大内、仁保地区の病院、クリニックの先生方や市内の有志の医師、さらに山口県医師会貞国燿会長と山口市医師会小田清彦会長にも名を連ねて頂くということになり、お願いしたところ、二十一名全ての先生から



宮野法明院での一字一石写経会

心よくご了承頂いた。さらに大内史談会、大内倶楽部、山口ふるさと大学、地元の小鯖地区代表ならびに、大村益次郎や明治維新研究者である内田伸先生と樹下明紀先生などにもお願いしたところ、こちらも直ちに了承された。その他にも有志を募

り、発起人は四十余名となった。

募金用チラシをつくることとなり、第一写真工業に依頼した。建立委員会発起人の代表を地元の長老で郷土史家の竹重勇二氏にお願いして、郵便局に寄付専用口座を作ることとした。振込み用紙の手数料は建立委員会負担として三千部印刷し、藤田和彦師から寄贈された。小鯖の柁の地はもと長州藩の監獄と刑場があり、「柁長者原の首斬場」と呼ばれていた。そこで刑死者

供養のための「石造六地藏尊」を彫刻して安置し、お祀りすることに決めた。

八月十八日、「大村益次郎医学記念碑」の揮毫を大内矢田の曹洞宗妙鑑寺住職で書道の先生でもある中村修啓師にかねてよりご依頼していたが、本日、実物大に大書され完



仁保源久寺における写経会

成した。堂々たる筆蹟である。八月中旬以降、当院ナース他有志十数名が炎天下の佐波川の河原に写経用小石を数千個、数回にわたり選別収集し、汗だくで石を洗ってくれた。

八月三十日、宮野の長徳山法明院に有志五十名が集い藤田和彦住職のご指導のもとで柗六地藏尊基壇内に納経する一字一石写経会が行われた。「般若心経」「観音経」「舍利礼文」や「六地藏尊名」などであった。これは刑死者供養のためであり、皆、初めての経験であった。

九月一日、医学記念碑の除幕式の日を十月七日と決定して発起人名を連署して市民賛同者へチラシと趣意書、寄付振込み用紙を発起人が手分けをして各処へ、配布を開始して募金活動に入った。柗の地は市有地となっており早くから山口市文化課、総務課、管財課との打ち合わせと許可申請書類提出が行われた。

九月二日、仁保の仁楽山源久寺に有志四十名が集い蔵本永生住職のご指導によって「延命地藏経」「仏説

阿弥陀経」「般若心経」などが一字づつ小石に筆と墨で謹写された。

九月三日、柗刑場跡地にて小鯖八幡宮古屋宮司によって地鎮祭ならびに、工事安全祈願祭が行われた。北に接する大内中学校教頭長広先生も参列された。同地に

大村益次郎医学記念碑
柗六地藏尊建立地鎮祭



柗刑場跡地での
一字一石写経会

テント掛けをして、小鯖禪昌寺町田老師よりお借りした経本によって「地蔵菩薩本願経」の一字一石写経が開始された。地元の有志約四十名参加。式後、石碑や六地藏尊の基礎工事が鑄銭司の「有限会社野村石材店」によって直ちに始まった。

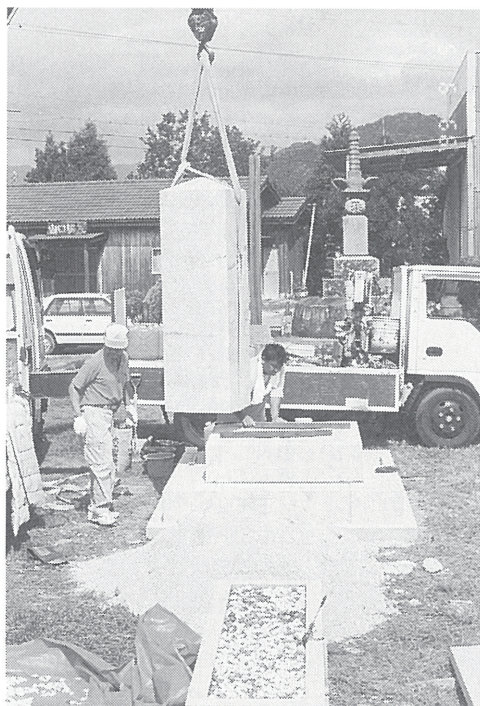
現地での「地蔵菩薩本願経」の写経会

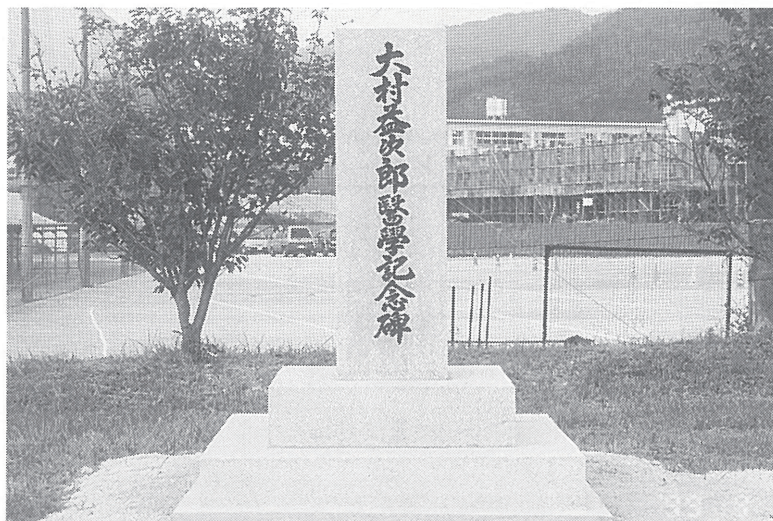


納経開始

九月四日、朝から夕刻までひきつづき写経会。四十名参加して地元の高齢の方々も「一生で初めての経験だが、大変うれしく、有難いことだ」と話しながら写経に励まれた。六地藏基壇内に一部納経開始。大内中学校広田校長先生も参加された。小中学生や中高年男女の方々も汗だくで写経した。二トンの大村益次郎医学記念碑をレッカー車を使って台石上に慎重に建立さ

医学記念碑建立作業中





建立直後の大村益次郎医学記念碑



柁六地藏尊基壇内へ
一字一石経の納経



柁六地藏尊開眼法要
柁刑場物故者供養会

れた。

九月五日、現地で早朝より写経会と納経。午後四時、柁六地藏尊建立なる。午後五時から六地藏尊開眼法要並びに三界万霊大供養会が挙行された。洞海寺伊藤良

仁住職の導師にて有志二十名が参列して執行。開式と同時に慈雨沛然と降りきたる、テント内で一同大読経、各自、心を込めて焼香した。供養後、車のヘッドライトで照明してテント内で全員で祝盃を上げた。この地で亡くなられた方々の涙雨のように感じた。

九月十一日、樹下明紀先生より
益次郎のお位牌が禅昌寺に安置さ



柊先亡者諸精霊慰霊尺八奉吹 曲名「鎮魂」
(村松逸眺師)



柊 六地藏尊



禅昌寺町田鉄巖師から
大村益次郎ご夫妻のお位牌のいわれを承る

れているとのお話を聞いていたので大内史談会、大内倶楽部、山口ふるさと大学の有志二十名は小鯖の同寺に町田鉄巖老師を訪ねた。町田住職は大村益次郎が三歳から十八歳まで育った秋穂天田の家が、後に鑄銭司に移築された「潮満寺」で誕生され、五歳まで過された方であ

り、益次郎との奇しき縁があられた由。潮満寺は後に無住となり、益次郎ご夫妻の位牌は同寺から親寺の禪昌寺に奉安された。一同参拝した。「故兵部大輔従三位大村永敏神霊」と神道名であり、琴子夫人は戒名でのお位牌であった。

九月十九日、大内史談会主催で特別講演「明治維新



大村益次郎ご夫妻の位牌（禪昌寺）

の先覚者大村益次郎」、講師内田伸先生をお迎えして大内公民館で開催し、多数の方が聴講した。
十月五日、六日、除幕式広場の草刈り、清掃や式典準備を行う。

十月七日、快晴の柊の地で前述の諸式典が行われた。除幕の紅白の紐は地元の重宗紀彦県会議員、田村茂照前県議ならびにコープ山口理事長、岡田勝市会議員、



鑄銭司郷土館の大村益次郎像
(彼は生涯和服で通したという)



除幕を待つ大村益次郎医学記念碑

徳山黒髪島の白御影石製医学記念碑が約三米の勇姿を表し、参会者百名より一斉に拍手が沸き上がった。ついで記念碑とステンレス製の案内板や説明板施工設置にあたられた「有限会社野村石材店」「株式会社オオ

山口市小鯖出張所生嶋輝三所長、小鯖十一区自治会原田久会長、大内中学校廣田公司校長、山口ふるさと大学梅地憲治副学長、竹重勇二建立委員会々々長、大内倶楽部及医師会の代表として筆者が一斉に紐を引き除幕すると



お祝いの餅まき

さんが、さらに五十名加わって老若男女百五十名で大賑いだった。

ついでテントを設営して祝賀会が挙行された。早朝より地元や発起人職員有志の女性パワーで炊き出をして料理された、「ちらし寿司」「おでん」「豚汁」さらに「つまみ」「ビール」「日本酒」「ジュースやお茶」などの無料接待が行われた。会場では終日お祝いの言葉や、「植栽工事をして此地を史蹟公園として市民憩

バクリエイティブ」と「大一写真工業株式会社」に建立委員会竹重代表から感謝状と金一封が渡された。

各界の代表各位の挨拶があつたあと、お祝いの紅白の餅まきや飴まきが三回に分けて行われた。

広場は大内中学校の生徒



進入路案内板



大村益次郎医学記念碑
脱隊諸士招魂碑
進入案内板



除幕した各界代表者



除幕された医学記念碑と
説明板



施工業者三社へ
感謝状贈呈



除幕祝賀会での大接待



紅白餅まき風景

いの広場になるとよい。」などと話題は尽きず、歓声や笑顔で一杯であった。怪談話も多かった柋の元刑場跡のイメージを払色し、新たに生まれ変わった新名所は正に秋晴れの好々日であった。

なお、募金活動は一口千円で暫く続け、萩往還「柋史蹟公園」として整備する計画である。ご賛同の皆様のお名前を刻み、後世に伝えることを願っています。

とになって居る。

「連絡先 竹重勇二発起人代表
電話 〇八三一九二七―一二二八」

説明板の内容は内田伸先生に書いて頂き、一部追記した。文面は次の通りである。

大村益次郎医学記念碑

『この地は江戸時代、長州藩の柋の獄舎のあった所です。』

慶応三年（一八六七）の秋、大村益次郎は藩の医学校「好生堂」から依頼されて、処刑された女囚遺体の腑分け（解剖）を行いました。江戸時代後期になると、洋学を学んだ医学者が、幕府や藩などの許可を得て、死刑囚の解剖を行いました。その機会はあまり多く

なく、特に女性体内の解剖は全国的に非常に稀でした。

この時の記録に「大村先生またその懇望により、のぞみて体内の難部を解き、一々施術の要約を講説す。衆医環立し目を注ぎ息を殺してその周密なる能技を感視せり」とあります。大村は周防鑄銭司の農村出身の医師ですが、早くから洋学を学び、兵学を持つて長州藩に仕えました。幕府の長州征伐には参謀として大いに功労がありました。柃解剖の当時、大村は四境戦争の後始末で



大村益次郎の大丸山鑄銭司墓

軍務多忙を極めていましたが、「好生堂」の懇望をいれて解剖を行ったことは、医学者としての大村の面目躍如たるものがあります。まさにこの地は、防長における近代医学黎明の地といえます。』

記念碑の右側には益次郎の生涯の説明板をたてた。

明治維新の先覚者

大村益次郎 顕彰碑

『文政八年（一八二五）五月三日に周防鑄銭司の医家の長子として生まれた。幼名を宗太郎といい、長じて村田良庵と名乗った。十八歳の時、三田尻の梅田幽斉に蘭学、九州の日田咸宣園の広瀬淡窓に漢学、大阪適塾の緒方洪庵に洋学・医学を学び、非凡な才能を認められて塾頭をつとめた。嘉永六年（一八五三）宇和島藩に招かれ、蘭学、兵学を教えた。蒸気機関の洋式軍艦を日本人の手で初めて製造し、湾内を航行したことは有名である。藩命により村田蔵六と改名した。数年後、江戸で洋学塾「鳩居堂」を開き、久坂玄瑞など全国の俊秀を教育した。ついで、幕府蕃書調所教授手伝、さらに講武所教授となった。安政六年（一八五九）江戸千住において女囚刑屍体の腑分を行って、蘭医学

書をもとに詳細な講義を行い、天下の医学者の注目を集めた。

その後、長州藩に召されて江戸藩邸に入り、洋学を教えた。横浜に居た米人へボンに英語を三年にわたり学んだのは、この頃である。萩に帰り明倫館の三兵学教授として洋学、兵学を長州藩士に指導して、洋式訓練を行なった。藩命により村田蔵六から大村益次郎と名を改めた。慶応二年（一八六六）幕府の長州征伐がおこり、参謀として全作戦をたてて、自らも石州口に出兵して洋式兵法をもつて幕府軍を撃退し、倒幕の時機を早めた。また大村は攘夷戦の最中に、密かに洋行費を調達して長州藩の若き俊英、「伊藤俊輔・井上聞多・山尾庸三・井上勝・遠藤謹之助」らを英国に派遣し近代国家を学ばせ、将来に備えた。さらに戊辰の役にも参謀として「国内の争いで同胞の血を流すことを避け、欧米列強に侵されないようにすべきだ」として早期にその解決を計るなど、大いに功をたて、明治新政府の樹立に力を尽くした。維新後は、兵部大輔とな

り、新たに軍制を改革した。当時、世界の列強により東アジアが侵略されていた状況を見聞して将来を憂えていたので、「日本の国は日本国民全部で守るべきだ」として国軍の建設に尽力した。明治二年（一八六九）九月四日、京都において旧思想の反対派の武士たちの襲撃を受け、十一月五日、大阪の病院で没した。四五歳であった。市内鴻の峰の山麓の普門寺には、大村が西洋兵学の講義をした観音堂がある。铸銭司の誕生



西洋兵学を講義した普門寺観音堂

地には記念碑があり、長沢の池畔に大村神社、裏の丸山に夫妻の墓がある。鑄銭司郷土館には大村益次郎の資料や遺品が展示され、近代日本の夜明けに奔走した大村の業績が紹介されている。東京九段の靖国神社々頭に立つ像は大村益次郎のありし日の英姿であり、日本における最初の西洋式銅像である。



靖国神社頭にたつ大村益次郎銅像

現代の豊かで幸せな生活があるのも大村ら維新の先覚者達が身を賭して、わが国の近代化をはかり、遙か未来を展望した大計を樹立したためである。その先見

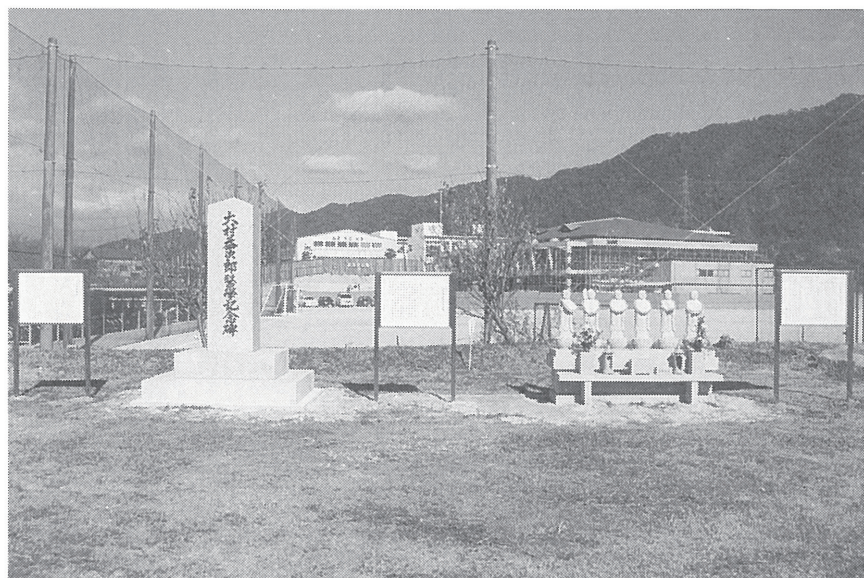
性と偉業に深く感謝し、ここに顕彰するものである。
平成十一年九月吉日』



大村益次郎肖像画
(大村神社内)



生誕地記念碑
(山県有朋揮毫)



完成した記念碑と六地藏尊説明板

六地蔵尊の由来について ひいらぎ

『仏教では、お釈迦様が亡くなられてから五十六億七千万年先に弥勒菩薩がこの世に出現されるまでの間は無仏の時代とされています。この無仏時代に釈尊の付嘱を受けて地藏菩薩が六道を能化され、この世を救済して下さるといわれています。

地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天人道を六道と呼びます。

十王経によると、金剛願地藏、金剛宝地藏、金剛悲地藏、金剛幢地藏、放光王地藏、預天賀地藏が六道の夫々を受けもたれて濁世を救済されると述べてあります。江戸時代に此処に長州藩の刑場があつて、多くの方々が亡くなりました。その先亡諸精霊の追福菩提のためにこの度、地域の有志によつて六地藏尊が建立されました。

地藏菩薩本願経をはじめとする多数の経巻の一字一石写経文が地域の方々により浄写されて基壇内に納められ

ました。平成十一年九月十四日に小鯖のご住職と地域の人々がつどい六地藏尊の開眼法要、三界万霊大供養会が行われました。六地藏尊は過去、未来にわたって自然界万物のしあわせのために不断読経をおつづけになられています。有難い清浄地が誕生しました。「しあわせ」を願う香華を手向けて、地藏菩薩眞言をお唱えを致します。

オン カア カア カビ サンマエイ ソワ カ

うん ぐん ぐん ぐん ぐん ぐん ぐん ぐん

敬礼 三乗行因 奇哉奇哉 成就

「感謝と祈りのことば」

わがいのちをいただいた

父母あるは幸いなり

ご先祖あるはさらに幸いなり

私たちを生かして頂くあらゆる人々と大自然のめぐ

みに 深く感謝いたします。

尊い生命を全うすることなく、事故、犯罪、天災、戦争などでこの世を去っていかれた犠牲者すべての皆様のご冥福を心よりお祈りいたします。

私たちは、かけがえないこの生命を、多くの人々の幸せづくりに、役立てることを誓います。

私たちは、地域の、日本の、世界の人々と大宇宙の幸せと平和を心からお祈りいたします。

平成十一年九月吉日』

参考資料

「脱隊騒動」明治二年十一月戊辰戦争後の長州藩では、奇兵隊や諸隊の二千人を天皇の親兵として常備兵にして残し、他の約二千名を解雇して解散を命じた。この選別は身分制を重視した不当な決定だった。長州藩内戦や四境戦争、戊辰之役に命を賭した功労者の農家の次男、三男などの諸隊士にとって理不尽なものだった。

長州藩のため、新政府のために命を捧げて働いた諸隊の不満隊士らは憤激して、脱隊して反乱をおこし、百姓一揆と合流して山口藩庁を包囲する大暴動となった。中央にいた木戸孝允は驚き急拠、帰山し常備軍を大量に投入して明治三年二月に鎮圧した。一坂太郎著、奇兵隊士研究所編「写真集 奇兵隊」によると、『鎮圧軍の死者は二十、負傷者六十四。脱隊兵の死者六十、負傷者七十三。同朋同志の血で血を洗う戦いだった。

さらに藩は、翌年にかけて反乱の首謀者を捕らえ、処刑する。死刑になった者だけでも百数十人もいたという、過酷な処刑だった。反乱首謀者のひとり佐々木祥一郎は、山口郊外の柵処刑場で首をはねられる寸前まで、暴れて抵抗したという。佐々木は万倉の国司家の家来で、奇兵隊結成当時から参加し、高杉晋作を補佐してきた男だ。自分たちの夢見た時代と、現実とのギャップがこれだった。刑吏に鉄棒で殴られ、血だらけで処刑された佐々木の胸中に去来したのは、ただ「無念」の一言だったのではないか。

ここに、血塗られた奇兵隊の歴史は、幕を下ろしたので

ある。』と記されている。

「大内村誌」より

『脱隊諸士招魂碑は、長野東原墓地俗に柵首斬場というところにある。明治三年旧藩諸隊内乱の時斬首せられたものが多数あった。死体を入れたという井戸は今も東の隅にある。碑文は今国訳して載せることにする。明治二十六年に建てたものである。

梵字東西南北 釈雲照律師書

「死は或は太山よりも重く、或は鴻毛よりも軽きも、死は一なり。その趣くところは異なりといへども、その悲しむべきは同じ。尊攘の議興りてより防長の士民奮つて国事に殉じ、死に赴くこと帰するが如きものの幾百千なるを知らず。不幸にしてその守るところを失し、その趣くところを誤り、罪辟に陥り以て斃るるものまたあげて数ふべからず。その重きものは招魂の祭あり、封贈の典あり、その軽きものは鳥鳶に委し、螻蟻に卑す。骨骸は荒草浅土に狼籍たりといへども収

領せず。その始は皆奮って国事に殉せしものなり。その前功亦没すべからず、而して人は徒にその重きものを悲しんで、その軽きものをかなしむなし。これ豈に仁人君子の心ならんや。今有志のものの残屍を原野の間に求め、あつめてこれを葬り、石を立て以てこれを表す。その得て知るべからざるものけだし多からん。今の以て収むるところ僅かに十に一のみ。悲しいかな。今乃ち文を作りて石に勤し並にこれを仁人君子に諭ぐ。

明治癸巳一月

従五位 長 莢 謹 書

明治廿六年四月十七日碑を建て落成す。祭典挙行の際、奉祀の人員左の如し

奇兵隊三十八人 整武隊三十人 振武隊十二人

建武隊六人 遊撃隊十八人 鋭武隊四人

とあり、奇兵隊や諸隊士の「末路」と「慰霊」の名文が塔石に記してある。無念の思いで斃れた多くの先亡各位に対して、今回の追福菩提の大法要が行われたことは誠に意義深く感じた。



明治26年以来、
今回、大供養された脱隊諸士招魂碑

この宝篋印塔は東下の二六二号線の辺りにあったが、工事のため西上の現位置に移設されたそうだと。

むすび

今回の事業には多くの市民の皆様からご寄付を頂いた。また遠くは東京、横浜、九州の有志の方からもご

芳志を頂いた。さらに物心両面から陰に陽にとご援助、ご協力頂いた大勢の方々に対して発起人の一人として心から感謝と御礼を申し上げる次第である。

現代は農業革命、産業革命について第三の革命、情報革命の新時代といわれる。国際的には市場開放の外圧が日毎に強まっておりグローバルな変革をとげつつある日本の現状も維新前夜とよく似ていると云われる。二〇〇六年には超高齢時代の第一波が訪れようとしている。私たちが今だ経験したことがない時代の到来は真近である。さらに少子化の影響も始まっている。

大村益次郎は洋書や上海渡航を通して兵学者の立場でマクロ的に「長州藩、国家と外国」の将来を見すえた。一方動物や人体の解剖を行なって医学者として「ミクロコスモス」を探索した彼の眞摯で科学的な生き方に学ぶべきことは多い。現在は地球規模での視点が求められる一方、地方分権の時代とも云われる。「ふるさと」を見つめなおし、大村のように「大医」としての行動をおこすことがその活性化の原点となろう。



柗六地藏と地区の子供たち
この子たちが21世紀を荷う。
大いに期待したい。

最後に、記念碑建立除幕が新聞報道されると、次の日に下関市の女性から「八重桜の苗六十本」が寄贈された。早速、十一月二十七日から柗の地に植栽を行なって公園化への第一歩が始まった。誠に有難くその善意に御礼を申し上げ、今回の事業の報告としたい。